

日本人とは―民族と国籍

大津 隆文

今年はコロナ下の閉塞感のある一年だったが、それだけに明るいニュースが貴重だった。中でも大谷翔平選手の活躍には元気づけられ、誇らしく思った。また、真鍋淑郎博士のノーベル賞受賞も嬉しいニュースだった。日本人として二十八人目のことだ。ふと気になったのは真鍋博士はアメリカ在住で米国籍とのこと、アメリカでは米国人の受賞者としてカウントされているのだろうか。

日本は血統主義で親が日本人なら生まれた時から死ぬまで日本人だ。いわゆるハーフである大坂なおみ選手や御嶽海関も同じ血統に入る。では新たに日本国籍を取得したドナルド・キーン博士や白鵬関はどうだろうか。法律的には日本人だが、私達は素直に日本人と思っているだろうか。

その点アメリカは面白い。人種的に米国人というのはない。黒人系、ヒスパニック系、アジア系と様々な人達がアメリカ人として誇りを持っている。

中華民族の偉大なる復興、という夢の実現を目指す中国も面白い。歴史的には異民族支配の王朝が何代もあり、漢民族は実際は混血民族であると言われる。

ユダヤ人というのは母親がユダヤ人か、ユダヤ教を信じている人達とのことだ。トランプ前大統領の娘イバンカ氏はユダヤ教に改宗しユダヤ人となった。

先日見たドキュメンタリーでは、ナチスはユダヤ人を科学的に判別しようとは大変な努力をしたらしい。ユダヤ人と目される人達から大量の血液を採取し、懸命に分析したが明確な識別方法は見つけれなかったという。

民族とは何か。自分達は同じ仲間だという一体感（アイデンティティ）を共有する集団である。その一体感の拠り所は、血統だけでなく言語、宗教、歴史、価値観等色々あるようだ。

古来我が国は幅広く渡来人を受け入れ、現在の日本人、文化がある。このグローバルな時代、日本の文化を愛し一緒に暮らしたいと、日本の国籍を取得する人達は今後増えていくであろう。血統だけにこだわらず、彼等を素直に日本人として受け入れる包容力のある国になってほしい。